

室蘭市中島地区における若者から見た商店街の現状と今後のあり方

正会員 ○矢野根 光 *1
同 真境名 達哉*2

5. 建築計画－5. 設計計画

商店街、地方都市、室蘭市、若者

1. 研究の背景と目的

近年、我が国では少子高齢化や都市圏への人口集中などを背景として、地方都市における商店街では商店数の減少や活気の喪失など、衰退が進行している。しかしこれまで商店街は地域コミュニティの形成の場として重要な役割を担ってきており、今後は新たなコミュニティ形成手段が必要であると思われる。全国的な傾向と同様に、近年の室蘭市中島地区の商店街を取り巻く状況は大きく変化している。中島地区には中島商店会と4つの商店街振興組合が存在している(図1)。4商店街振興組合で構成する中島商店会コンソーシアムは、2010年9月に地域の交流スペース「ふれあいサロン(図2)」が買い物客の利便性向上の拠点として設けられたが、それは若者ではなく主に中高齢者は対象としているように感じる。さらに近年の商店会の活動で若者に向けた活動は全く行われていないようである。高齢化が進む中島地区において持続可能な地域を作っていくためには商店街における若者の活動が重要だと考える。



図2 商店会コンソーシアム

本研究では、「若者」というキーワードに着目し、今後の中島地区で新たに「若者に目を向けた商店街のあり方」について考察する。そのためにまず中島地区の商店街の現状を再確認し、さらに若者から見た商店街の現状と今後のあり方に対する意識を把握した上で、これからの地方都市における地域のコミュニティ形成の場としての商店街のあり方を考察するとともに、地域の交流スペースの可能性や計画内容についても考えたいと思う。

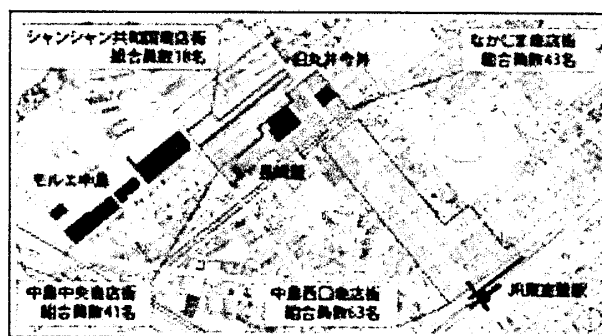


図1 中島地区の商店街振興組合 S=1/10000

2. 研究の方法

本研究では、まず室蘭市中島地区の概要について、①商店街の経緯、②消費者動向、③若い事業者の意識、の項目について文献¹⁾やヒアリング調査により把握する(3章)。なお、ヒアリング調査は11月18日～1月29日の間に、中島商店会の役員などに対して計4回行った。次にアンケート調査により若者の中島地区での活動や商店街の現状と今後のあり方に関する意識を捉える(4章)。なお、アンケートは普段から中島地区を訪れる地元の高校生・大学生・社会人を対象に、2011年1月14日～24日の期間で行った(N=82)。さらに中島地区における若者の活動状況と意識調査の結果と商店街の空き店舗の現状から、若者に向けた地域の交流スペースの配置計画の検討を行う(5章)。なお、空き店舗の現状については室蘭市商店街空き店舗情報²⁾に加え、独自で空き店舗の調査を行う。調査は2010年11月28日～30日で計6回、商店街を歩き、店舗の営業を確認した。

3. 中島地区の現状と課題

3-1. 商店街の経緯と消費者動向

近年、中島地区の商店街に大きな影響を与えた出来事に関しては以下のようにまとめた。

1996～2009年に行われた中島中央通整備事業について、中島商店会へのヒアリングによると、拡幅工事による店舗施設の建て替えにより中島地区の商店数は減少している。

2009年の新日鉄の社有地を活用したCRE事業のモデルケースとして、西胆振最大の商業施設となるモルエ中島が建設された(図3)。

モルエ中島の開店により、中島地区の商圈は西胆振全体へと拡大した。さらに波及効果として周辺地域では飲食テナントなどの進出が見られた³⁾。

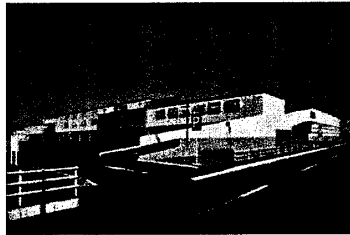


図3 モルエ中島

2010年3月に胆振地区唯一の百貨店であった丸井今井室蘭店が閉店を迎えた(図4)。

室蘭市の調査^{4) 5)}によると、市内の購買率は平成10年の調査から僅かながら増加傾向にあったが平成22年度調査では大幅な減少が見られたことから、丸井今井室蘭店の閉店の影響は大きいと判断できる。

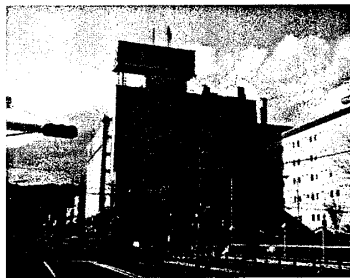


図4 旧丸井今井室蘭店

中島地区での購買先では22年度調査よりモルエ中島が1位となっており、商業の中心はモルエ中島に移行したと考えられる。

3-2. 若い事業者の意識

ヒアリング調査によると現在の中島商店会では主に50～60代の役員を中心として活動しており、今後は若手による活動を行い、商店会の活動を受け継いでいく必要があるとしている。また中島商店会の30～40代の若手経営者による青年経営研究部へのヒアリング調査によると、研究部の課題として「商店街に若い世代が少ない」「活動する場が無い」「仕事が忙しく活動に時間が取れない」などが挙げられた。現在の研究部は固定メンバーがおらず、今後の具体的な活動計画も無いことから、地域活動の実行力は低いことが伺える。

4. 若者の中島地区に対する意識

4-1. 若者の中島地区での活動

アンケートより、若者の中島地区への来街頻度は全体で「ほぼ毎日」「集に2～3回」という回答が56%となった。特に社会人は対象者の職場が中島地区にあるため、高い値となっている(図5)。中島地区を利用する若者は多い事が分かる。また来街の目的は「買い物」の割合が全体で48%となっており、商業の中心である分かる(図6)。

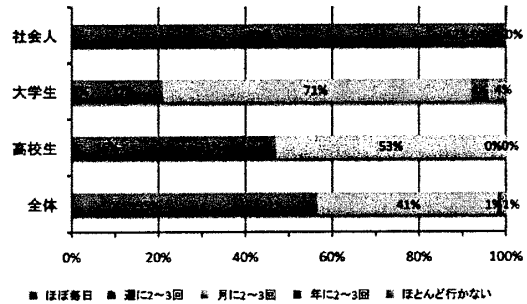


図5 中島地区への来街頻度 (N=82)

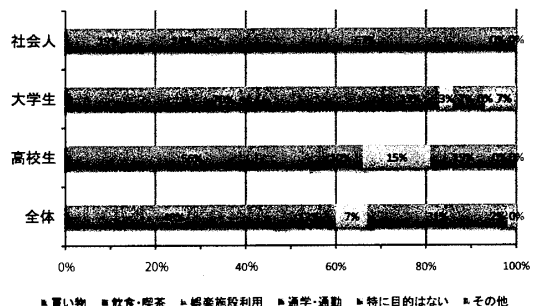


図6 中島地区への来街目的 (N=81)

アンケートではさらに、中島地区の商店街において、若者の利用が多いと思われる店舗について利用頻度を尋ねている。「毎回利用する」と「たまに利用する」を合わせると、「モルエ中島」が78人(N=81)、「長崎屋(メガドンキ)」が63人(N=80)となり、それ以外にも利用する店舗は20件が挙げられている(N=28)、それもチェーン店などが多く、個人商店の利用は少ないと思われる(図7)。



図7 若者が利用する店舗 S=1/10000

4-2. 若者のバス利用

若者の中島地区への来街手段としては「バス」が41%で最も多く利用されている(図8)。またバス停の利用では、「仲通」23人、「東室蘭西口」21人、「東通」12人(N=53)が多く利用されている。これらのバス停は中島地区における若者の活動を考える上で重要な拠点となると考えられる。

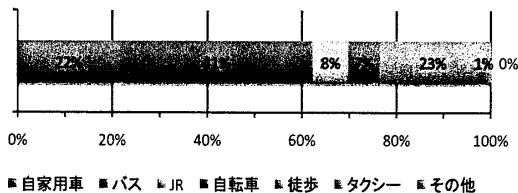


図8 中島地区への来街手段 (N=81)

4-3. 若者の商店街に対する意識

商店街に対する意識については、若者は商店街の活気や魅力に関しては80%程度が「あまりない」から「全くない」と回答しており、あまり良い印象を持っていない。また中島地区の「若者向けの店」については、「あまり充実していない」という回答が65%で最も多く、特に大学生は低い評価をしていることが分かる。また現状において「商店街のイベントや行事などの活動」への関心は社会人が特に高く「盛んに行われている」が8%、「やや行われている」が46%であり、高校生や大学生との間で関心に差があると考えられる。イベントや行事が拡大されることを望む割合は全体で「強く望む」が15%、「やや望む」が46%であり、まちづくり活動への参加についても、今後の商店街の活動次第で若者によるまちづくりを行っていきける可能性はあると思われる(図9)。

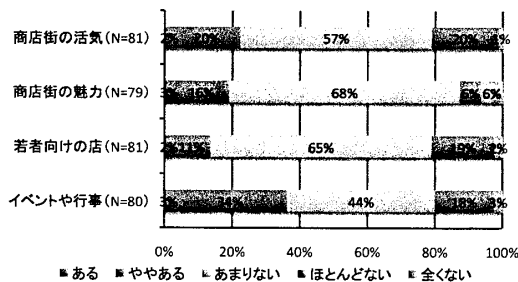


図9 若者の商店街に対する意識

4-4. 空き店舗の活用に関する意識

「中島地区に欲しいお店 (N=79)」では、「ファーストフード(40人)」、「飲食店(32人)」、「雑貨・装飾品(32人)」などが特に望まれている。また「具体的な店名」では全国チェーンの飲食店などが挙

げられた。空き店舗を活用して新しいお店を開く場合、若者の期待は「購買」や「娯楽」よりも「飲食」にあると思われる(図10)。

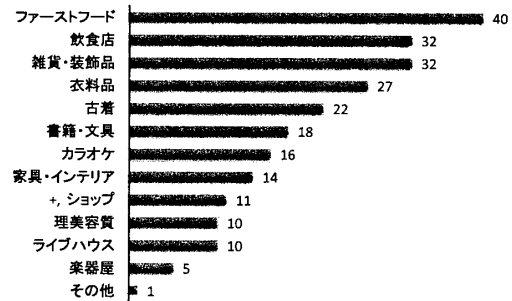


図10 中島地区に欲しいお店 (N=79)

5. 地域の交流スペースへの期待と計画の検討

5-1. 空き店舗の現状

空き店舗調査の結果、中島地区の商店街における空き店舗の総数は39件となった。商店街の内訳は、なかじま6、中島西口24、中島中央2、シャンシャン共和国7であり、特に東室蘭駅西口の地域に多く分布していることが分かる(図14)。中島地区全体の傾向としては、店舗の二階部分が貸店舗となっているケースが多く見られた(図11)。中島地区において地域の交流スペースを計画する際には、これらの空き店舗を有効活用することが望ましいと思われる。



図11 中島地区の空き店舗

なお、室蘭市により丸井今井閉店の影響緩和を目的とし、事業開始に伴う必要経費の一部を助成する室蘭市商店街出店促進緊急支援事業⁶⁾が行われ、2010年3月から現在までに中島地区で24件の新規出店が見られた。

5-2. 地域の交流スペースに関する意識

先のアンケートでは、交流スペースに関する意識について尋ねている。それらの条件を見ると、まず交流スペースは自由に利用できることが前提であり、次に休憩所としての基本的な機能が求められる。さらに飲食や夜間利用などの利用に

置けるニーズに応じていくことにより、交流スペースを利用する若者の数は増えていくと思われる。逆に地域交流に関してはあまり望まれておらず、身内や友人同士での利用を想定していることが予想される（図 12）。中島地区の商店街の現状を考えれば、これらのニーズに応えうる最小規模で交流スペースを計画するべきだと考える。

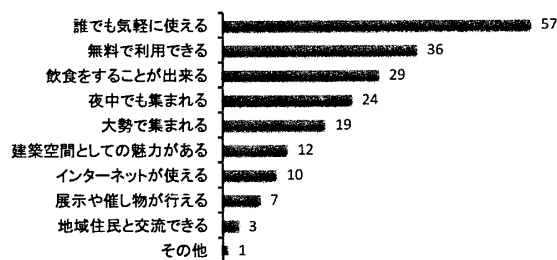


図 12 地域の交流スペースの条件 (N=76)

このような交流スペースが設置されることを望むか、という質問に対しては8割以上の若者が「強く望む」もしくは「望む」と回答しており、中島地区において若者に向けた交流スペースの必要性が伺える（図 13）。

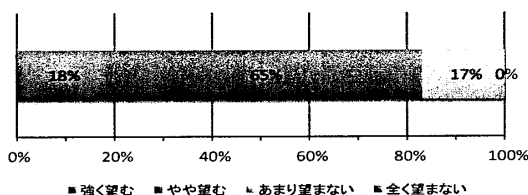


図 13 地域の交流スペースの希望 (N=77)

5-3. 地域の交流スペースの設置条件の検討

交流スペースの設置場所としては、アンケートより把握したモルエ中島と長崎屋の利用頻度の高さ、その以外の利用店舗の多さ、バス停利用の多さなどから、現在の中島地区における若者の活動は主にモルエ中島～長崎屋間の周辺で行われており、大型店とバス停を拠点とした動線が存在すると思われる。この場所に休憩や交流などを目的とした若者が集まる交流スペースを設置し、まちづくりの拠点とすることで、商店街の活動と若者の関係をより近付けることができると考える。したがって交流スペースの計画範囲は以下のように設定した（図 14）。

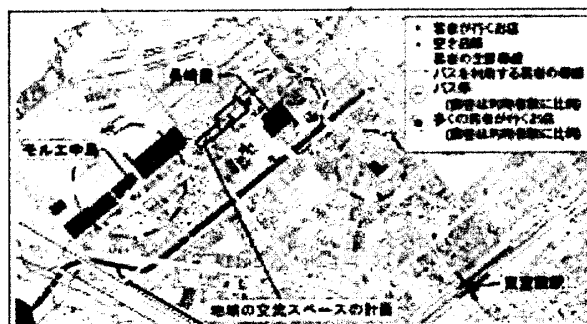


図 14 地域の交流スペースの計画 S=1/10000

6. 考察

地方都市の商店街において特に若者を中心に都市部や大型店へと購買先を移行させる傾向が見られ、そのことが地元商店街の衰退に繋がっていると考えられる。高齢化や後継者不足の問題を抱える商店街において若者へ向けた活動を行い、商店街と若者を結ぶコミュニティを形成することが重要である。しかし現状の商店街には新たな試みを行う実行力が不足しており、今後の活動を行う仕組み作りや、商店会員や地域住民の意識作りが必要である。

中島地区における地域の交流スペースは、商店街の不足機能を補いつつ若者が集まる場所を作り出すことで、「モルエ中島」などの大型店だけで完結している若者の活動を商店街まで引き込み、彼らが日常的に地域を歩くことで、若者と商店街との間に新たな交流を生むしくみになると考える。また地域の交流スペースを求める若者の割合は現時点においても高く、若者に向けた交流スペースの実現可能性は少なからずあると思われる。今後は空き店舗の老朽の状態、地域との視認性、交流スペースの規模などの条件から、さらに設置場所や機能や内容においても細かく計画していく必要がある。

参考文献

- 1) 室蘭中島商店会：室蘭中島商店会創立 50 周年記念誌、2001 年
- 2) 室蘭市：室蘭市商店街空き店舗情報
<http://www.city.muroran.lg.jp/main/org6230/akitenpo.html>
- 3) 国土交通省：代表的な土地有効活用事例、モルエ中島 SC
<http://tochi.mlit.go.jp/chiiki/land/ex20/1612/index.html>
- 4) 室蘭市：平成 19 年度室蘭市消費動向調査報告書、2007 年
- 5) 室蘭市：平成 22 年度室蘭市消費動向調査報告書、2010 年
- 6) 室蘭市：室蘭市内での出店に対する助成について

*室蘭工業大学大学院工学研究科 博士課程前期

* Graduate Student, Department of Civil Engineering and Architecture, Muroran Institute of Technology, Graduate School of Eng

**室蘭工業大学くらし環境系領域 講師

** Lecturer, College of Environmental Technology, Muroran Institute of Technology